

科目名 Subject	立体造形演習Ⅰ Three Dimensional Art WorkⅠ			教員名	大須賀 万里子	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2単位	
必修／選択	必修	授業形態	演習	時間	30時間	
実践的教育	○					
主な学習効果	美容技術とデザイン力、すなわち美容における実践力			表現力、すなわち芸術における実践力		
	—			◎		
科目の概要	立体造形作品の構想や制作をおこなう時に必要不可欠な美術全般の基礎知識や、基礎技術を学び創意工夫しながら課題作品を完成できるようになる。 様々な多くの素材や教材を用い、それらの特徴と加工方法の違いや関連性を知り興味を持ち楽しみながら技術を習得できる。さらに複数の課題作品を制作しながら、関連のある作品の鑑賞や批評会を行い修了研究へつなげていく事ができる。また立体造形制作では、他の美術・美容関連科目の基礎知識や技法を用いる事もあり、美術を主として他の科目の関連性を広い視野で体験することが出来る。					
授業方法	授業の進め方は対面授業で行う。					
授業の目標	平面と立体の造形上の違いや仕組み、素材の知識、技法、形態、質感、色彩、発想、工程の基本を知り創意工夫や応用する事で、美術的表現を広める事ができるようになる。さらに、いろいろな異なる素材を扱いながら課題作品制作に取り組み造形の面白さ、新鮮さ、ユニークさ、難しさを知りながら工程に沿って作品を作る事ができる。学んだ立体造形の美的知識や技術で作りたいテーマを決定できるようになり、修了研究や美容作品に応用しながら、自分や他の人を美しく豊かにできる工夫や準備ができるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	予習・復習をおこなう時で、授業の内容や課題制作がより理解できる。授業ごとに行う事。その他美術に関係のある展覧会、映像、書籍、雑誌、美術大学の卒業制作点を見ること。内容等はそのつど指示する。					
教科書・教材	教科書		課題の説明、資料、作品鑑賞の指示当、担当教員作成のものを配布。			
	教材		なし			
	使用設備・備品		木工室の設備備品を使用。			
	参考文献		美術関連の文献を必要に応じて指示。			
評価方法	説明や資料の理解度30% 課題制作の熱意・創意工夫10% 創造力・表現力・応用力60%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	個別に実地指導を行います。					
	完成した課題作品について個別に指導を行います。					
履修上の注意	授業の最初に内容や要点の説明を行うので、遅刻をしないこと。課題作品の完成ごとに写真撮影をする事。（修了研究ポートフォリオ用）授業内容の順序、回数は進行状況により変更になる場合もある。					
本科目履修と関連する資格	資格名	芸術学士				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	前期全般の授業内容説明。最初の課題について説明	立体作品を制作するための構想、工程の心構えや事前の準備の大切さを知り作成する事ができる。	予習・自分の知る範囲の立体彫刻を考え調べて見る。(60分) 復習・授業の内容を確認し課題の構想を考える(60分)
第2回	「平面から立体へ」－紙の造形－紙の基礎造形(1) 紙の試作	造形素材としての紙の特徴や簡単な加工方法を体験し、紙素材の可能性の幅広さを知り作成することができる。	予習・未の周りの紙製品を調べる。(60分) 復習・紙の課題作品の見直し学んだ技法を確認する。(60分)
第3回	「平面から立体へ」－紙の造形－紙の基礎造形(2) 平面のデザイン	平面デザインの作成法を知り、変化のある形を数多く作れるようになる。	予習・デザインの意味や内容をできる範囲で調べる。60分) 復習・学んだ制作法を確認し覚える。(60分)
第4回	「平面から立体へ」－紙の造形－紙の基礎造形(3) 色彩	アクリル絵の具の使い方を体験し、混色技法で多くの色を作り出す楽しさを知り作成する事ができる。	予習・身の周りや自然の中にある、好きな色を探す。(60分) 復習・混色の技法を確認し技法を覚える。(60分)
第5回	「平面から立体へ」－紙の造形－紙の基礎造形(4) 抽象の形	抽象形の意味と制作法を知り、その本体部分を支える台座の大切さを造形制作に生かす事ができる。	予習・身の周りや自然の中にある、抽象の形を調べる。60分) 復習・制作した台座や抽象形を見直し工程を覚える。(60分)
第6回	「平面から立体へ」－紙の造形－紙の基礎造形(5) 立体へ	課題作品のバランス、強度を考え平面から立体へ変化する過程を楽しみ、完成の達成感を知り作成する事ができる。	予習・作品完成を目指しいろいろな形の組み合わせを試す。(60分) 復習・完成した課題作品の写真撮影(60分)
第7回	「イメージと形」－発泡材と粘土－試作品制作(1)	粘土の素材でミニ作品を作り、感覚的なイメージを現実形にする方法を知り、制作に応用する事ができる。	予習・制作したいミニサイズの形を考える。60分) 復習・ミニサイズの形を拡大する方法を考える。60分)
第8回	「イメージと形」－発泡材と粘土－芯材のデザイン(2)	発泡スチロールの加工法とその応用を体験し素材の多様性を認識し作成する事ができる。	予習・ミニ造形を拡大する方法と他の形を考える。(60分) 復習・芯材の大切さを理解し方法を覚える。(60分)
第9回	「イメージと造形」－発泡材と粘土－粘土制作(3)	粘土付けを通して、粘土素材の特徴、質感を知り、加工のしやすさを学び制作の意欲を深め作成することができる。	予習・粘土付けを効果的に行う為、形体の構想を考える。60分) 復習・さらに形体のデザインを考える。(60分)
第10回	「イメージと造形」－発泡材と粘土－彩色と仕上げ(4)	粘土の完成作品に彩色を行う事で表現力や存在感がよりよくなる事を体験し作成する事ができる。	予習・作品の彩色にむけて、効果のある配色を調べる。(60分) 復習・完成した課題作品の写真撮影をおこなう(60分)
第11回	「空間と造形」－石膏の基礎造形－型製作と流し込み(1)	石膏の特徴と技法を知り、様々なデザインの型に流し込む方法で、素材の変化と多様性に興味を持ち作成する事ができる。	予習。身の周りに石膏製のものがあるか調べて見る。(60分) 復習・石膏の特質と技法を再確認し覚える。(60分)
第12回	「空間と造形」－石膏の基礎造形－型抜きと成型(2)	型抜きをした石膏形の不要な部分を修正する技法を知り、造形の面白さを深め作成する事ができる。	予習・復習・石膏で型取りをする、手のいろいろな形を考え、石膏の修正方法を覚える(60分)
第13回	「空間と造形」－石膏の基礎造形－立体製作(3) 石膏と形	石膏の素材と技法をさらに幅広く習得する為、彫刻刀や加工の工具の使用方法を習得し作成する事ができる。	予習・立体のデザインを数種類考える。(60分) 復習・彫刻刀や他の工具の使用法を確認し覚える。60分)
第14回	「空間と造形」－石膏の基礎造形－立体製作(4) 立体へ	自分のイメージに沿った形体をほぼ作成することができるようになる。	予習・課題作品の完成を目指し形、色、表面処理等を考える。(120分)
第15回	「空間と造形」－石膏の基礎造形－立体製作(5) 立体完成	今までに習得できた技法や知識を応用し、課題作品を完成できた満足感や達成感を知り作成する事ができる。	予習・課題作品の反省、写真撮影を行う(60分)